

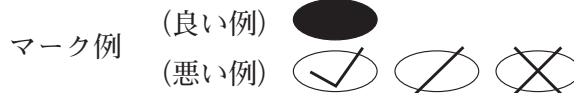
令和4年度（令和3年度実施）  
高知県公立学校教員採用候補者選考審査  
筆記審査（専門教養）

小学校 中学校 県立学校 養護教諭

受審番号		氏 名	
------	--	-----	--

【注意事項】

- 1 審査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないでください。
- 2 解答用紙（マークシート）は2枚あります。切り離さないでください。
- 3 解答用紙（マークシート）は、2枚それぞれに下記に従って記入してください。  
○ 記入は、HBの鉛筆を使用し、該当する○の枠からはみ出さないよう丁寧にマークしてください。



- 訂正する場合は、消しゴムで完全に消してください。
- 氏名、受審する教科・科目、受審種別、受審番号を、該当する欄に記入してください。

また、併せて、右の例に従って、受審番号をマークしてください。

受 審 番 号				
万	千	百	十	一
1	2	3	4	5
○	○	○	○	○
●	○	○	○	○
○	●	○	○	○
○	○	●	○	○
○	○	○	●	○
○	○	○	○	●

記入例

(受審番号12345の場合)

- 4 解答は、解答用紙（マークシート）の解答欄をマークしてください。例えば、解答記号 ア と表示のある問いに対してbと解答する場合は、下の(例)のようにアの解答欄の b をマークしてください。

(例)

ア	a	●	c	d	e	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	.	-	±
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

なお、一つの解答欄に対して、二つ以上マークしないでください。

- 5 筆記審査（専門教養）が終了した後、解答用紙（マークシート）のみ回収します。監督者から指示があれば、この問題冊子を、各自、持ち帰ってください。



第1問 次の1～3の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、学校保健安全法（昭33. 4. 10法律第56号）の条文である。文中の（ ① ）・（ ② ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ア
---

第9条 養護教諭その他の職員は、相互に連携して、（ ① ）又は児童生徒等の健康状態の日常的な観察により、児童生徒等の心身の状況を把握し、健康上の問題があると認めるときは、遅滞なく、当該児童生徒等に対して必要な指導を行うとともに、必要に応じ、その保護者（学校教育法第16条に規定する保護者をいう。第24条及び第30条において同じ。）に対して必要な（ ② ）を行うものとする。

	①	②
a	健康相談	指導
b	健康相談	支援
c	健康診断	指導
d	健康相談	助言
e	健康診断	助言

- 2 次の文は、学校保健安全法施行規則（昭33. 6. 13文部省令第18号）の条文である。文中の（ ① ）～（ ③ ）に該当する語句の組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。 

イ
---

第8条 学校においては、法第13条第1項の健康診断を行つたときは、児童生徒等の健康診断票を作成しなければならない。

2 校長は、児童又は生徒が進学した場合においては、その作成に係る当該児童又は生徒の健康診断票を進学先の校長に送付しなければならない。

3 校長は、児童生徒等が転学した場合においては、その作成に係る当該児童生徒等の健康診断票を転学先の校長、保育所の長又は認定こども園の長に送付しなければならない。

4 児童生徒等の健康診断票は、（ ① ）保存しなければならない。ただし、第2項の規定により送付を受けた児童又は生徒の健康診断票は、当該健康診断票に係る児童又は生徒が進学前の学校を卒業した日から（ ① ）とする。

第9条 学校においては、法第13条第1項の健康診断を行つたときは、（ ② ）以内にその結果を幼児、児童又は生徒にあつては当該幼児、児童又は生徒及びその保護者（学校教育法（昭和22年法律第26号）第16条に規定する保護者をいう。）に、学生にあつては当該学生に（ ③ ）するとともに、次の各号に定める基準により、法第14条の措置をとらなければならない。（以下略）

	①	②	③
a	5年間	30日	通知
b	3年間	30日	指導
c	5年間	30日	指導
d	10年間	21日	通知
e	5年間	21日	通知

- 3 次の文は、学校保健安全法施行規則（昭33. 6. 13文部省令第18号）の条文である。文中の（ ① ）～（ ③ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

第10条 法第13条第2項の健康診断は、次に掲げるような場合で必要があるときに、必要な検査の項目について行うものとする。

- 一 感染症又は（ ① ）の発生したとき。
- 二 （ ② ）等により感染症の発生のおそれのあるとき。
- 三 夏季における休業日の直前又は直後
- 四 （ ③ ），寄生虫病その他の疾病の有無について検査を行う必要のあるとき。
- 五 卒業のとき。

	①	②	③
a	食中毒	風水害	結核
b	熱中症	風水害	麻しん
c	食中毒	自然災害	結核
d	熱中症	自然災害	麻しん
e	アレルギー疾患	自然災害	麻しん・風しん

第2問 次の1～3の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル」(平成27年度改訂 公益財団法人 日本学校保健会)の中で視力の事後措置について述べたものである。文中の( ① )～( ⑤ )に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ア

- 1 視力A (1.0以上)の者については、措置の必要はない。～中略～ 遠距離や近距離が見えにくいとか、長時間見続けると眼が疲れる、頭が痛い、かすんで見える等の訴えがあれば、眼科受診を勧める。この際、( ① )や日常の学習態度を参考にする。
- 2 視力B (( ② ))の者は、再検査を行い、再度B以下であれば眼科で受診するように勧める。(年少・年中児は除く)
- 3 視力C (( ③ ))・D (( ④ ))の者は、全て眼科への受診を勧め、その指示に従うよう( ⑤ )する。眼鏡の矯正によってもなお視力がAに達しない者については、教室の座席を前にするなど配慮が必要である。

	①	②	③	④	⑤
a	生活習慣	0.9～0.6	0.5～0.1	0.1未満	助言
b	保健調査	0.9～0.7	0.6～0.3	0.3未満	指導
c	生活習慣	0.9～0.7	0.6～0.3	0.3未満	指導
d	健康観察	0.9～0.6	0.5～0.3	0.3未満	指導
e	保健調査	0.9～0.6	0.5～0.1	0.1未満	助言

- 2 次の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成27年度改訂 公益財団法人 日本学校保健会）の中で聴力の検査の実際について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下の a～e から一つ選びなさい。

イ

方法

- 1 選別聴力検査は聞こえのよい耳から始めるが、どちらがよく聞こえるか分からないときは（ ① ）から始める。
- 2 受話器を被検査者の耳に密着させる。
- 3 まず（ ② ）の音を聞かせ、聞こえるかどうか応答させる。応答が不明瞭なときには（ ③ ）を用いて音を切ったり、出したりして応答を求める。明確な応答が得られたら（ ④ ）の音を聞かせ応答を確かめる。応答は応答ボタンを押すか手を挙げるなどの合図で行わせる。

平均聴力の算出

聴力は平均聴力で示される。平均聴力は以下の式で算出される。

500Hzの閾値a dB, 1,000Hzの閾値b dB, 2,000Hzの閾値c dB

○ 平均聴力 = （ ⑤ ）

	①	②	③	④	⑤
a	右耳	1,000Hz30dB	断続音	4,000Hz25dB	$(a + 2b + c) / 4$
b	左耳	4,000Hz25dB	断続音	1,000Hz30dB	$(a + b + c) / 4$
c	右耳	1,000Hz30dB	継続音	4,000Hz25dB	$(a + b + c) / 4$
d	左耳	1,000Hz30dB	断続音	4,000Hz35dB	$(a + 2b + c) / 4$
e	被検査者が希望する耳	4,000Hz25dB	継続音	1,000Hz30dB	$(a + 2b + c) / 4$

- 3 次の文は、「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成27年度改訂 公益財団法人 日本学校保健会）の中で色覚について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ウ

#### 留意事項

- 1 検査を受ける児童生徒等がほかの者から特別視されないように配慮するとともに、本人が嫌な思いや恥ずかしい思いをしないよう、態度や言葉づかいに気を付ける。
- 2 色覚異常を有する児童生徒等が進学や就職で（ ① ）を受けないよう、希望者には適切な時期に色覚の検査が受けられるような体制を整える。
- 3 学習指導等を行う場合、どのような支障があるか日常観察等を通じて把握するとともに、プライバシーを尊重し、（ ② ）を与えないように適切に配慮する。そのためすべての教職員は、色覚異常について正しく理解し、（ ③ ）を深めることが重要である。
- 4 該当する児童生徒等が、将来に希望を持ち、自己の（ ④ ）の伸長を図ることを目指すように指導する。
- 5 検査表は（ ⑤ ）を避けるため、使用後は暗所に置くなどして保管に留意する。また、5年程度で更新することが望ましい。

	①	②	③	④	⑤
a	差別	劣等感	支援体制	長所	変色
b	不利益	不安	共通理解	長所	脱色
c	不利益	劣等感	共通理解	個性	変色
d	いじめ	不安	支援体制	長所	脱色
e	差別	劣等感	連携	個性	変色



第3問 次の1～11の問いに答えなさい。

- 1 次の文は、「令和元年度学校保健統計（学校保健統計調査報告書）」（文部科学省）における調査結果のポイントである。これらの説明のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。
- ア

**【健康状態調査】**

- (1) 裸眼視力1.0未満の者は、小学校、中学校及び高等学校で過去最多。  
 (2) 耳疾患と判定された者は、小学校、中学校及び高等学校で過去最多。また、鼻・副鼻腔疾患と判定された者は、小学校で過去最多。  
 (3) むし歯（う歯）と判定された者は、ピーク時（昭和40～50年代）より減少傾向が続いており、中学校及び高等学校で過去最少。

**【発育状態調査】**

- (1) 身長の平均値の推移は、平成6年度から13年度あたりをピークに、その後横ばいもしくは増加傾向。  
 (2) 体重の平均値の推移は、平成10年度から18年度あたりをピークに、その後横ばいもしくは減少傾向。  
 (3) 肥満傾向児の割合は、この10年間でおおむね横ばいもしくは増加傾向。痩身傾向児の割合は、この10年間でおおむね横ばいもしくは減少傾向。

	健康状態調査			発育状態調査		
	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)
a	○	○	×	×	×	○
b	○	○	×	○	○	○
c	○	×	○	×	○	×
d	×	×	○	○	×	×
e	×	○	○	○	○	○

2 児童生徒等の傷病および異常にかかわる次の(1)～(3)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、足首の痛みについて述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 イ

足首の痛みは、大きく分けて、ケガによるものとスポーツなどによって使いすぎることによる障害の2つに分けられる。

一般には足首の捻挫といわれるものが、(①)である。足関節にはとくに内側と外側にしっかりした靭帯があり、特にケガになりやすいのはほとんどが(②)である。ケガをする足の状態としては、足の裏が地面にちゃんとつかず、足先を伸ばして足の外側で踏み込んだり、着地したときに生じることが多いとされている。(②)の靭帯のなかでも、(③)という靭帯の損傷や断裂がもっとも多くみられる。さらに、ひどくねじると踵腓靭帯も損傷する。

このときの症状としては、ケガをしてすぐには、痛くて歩きにくくなる。そのうち、足首の(④)の部分が増れてくる。靭帯が部分的もしくは完全に切れて、靭帯に通っている毛細血管が切れて、出血しているからである。

すぐに手術をして靭帯を縫ったりすることはほとんどないが、ケガしてすぐには無理をせず、傷んだところをアイシングし、足首が動かないように(⑤)することが非常に大切である。

	①	②	③	④	⑤
a	足底腱膜炎	内側	前脛腓靭帯	前内側	固定
b	足関節果部損傷	外側	前距腓靭帯	前内側	挙上
c	足関節靭帯損傷	外側	前脛腓靭帯	前内側	挙上
d	足底腱膜炎	内側	前脛腓靭帯	前外側	圧迫
e	足関節靭帯損傷	外側	前距腓靭帯	前外側	固定

(2) 次の表は、学校検尿で発見される腎疾患について示したものである。①～⑤のうち、誤っているものの組み合わせはどれか。下のa～eの中から一つ選びなさい。

ウ

① 体位性蛋白尿	起立性蛋白尿とも呼ばれる。小学校低学年から中学生に多い病態である。起立性蛋白尿を呈する人は前日就寝時に排尿し、翌日起床時に採尿すると尿中の蛋白は陰性となる。
② 無症候性蛋白尿	蛋白尿のみが見られるが、浮腫やその他の臨床症状が見られない状態である。ゆっくりと進行する疾患が原因となることが知られている。まれにネフローゼ症候群の発症初期の状態を学校検尿にて指摘されることがある。
③ 血尿症候群	無症候性血尿などとも呼ばれ、必ず両親や家族に同様の方がいないかどうかを問診にて確認したり、実際に検尿することにより、良性家族性血尿であるかどうかを確認することが重要である。遺伝性の場合には血尿が消失することはない。原因不明の血尿は5年後には多くが消失する。
④ 急性腎炎症候群 (急性腎炎)	血尿、蛋白尿、円柱が半年以上持続する腎炎である。軽症のものから末期腎不全に進行するものまで、いろいろな腎炎が含まれる。このタイプの腎炎では、検査所見や臨床症状を参考にして腎生検を行い、病理学的な診断をつけることが必要となる。
⑤ 慢性腎炎症候群 (慢性腎炎)	このタイプの腎炎は学校検尿で発見されることはまれである。しかし、軽症のタイプがたまたま学校検尿で発見されることがある。溶連菌感染症に罹患後2週間程度経過してから発症する疾患が有名である。

a	b	c	d	e
①⑤	①②	②③	③④	④⑤

- (3) 次の表は、屈折異常（遠視、近視、乱視）と不同視について示したものである。表中の（①）～（⑤）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

工
---

遠視	無調節状態で、網膜より（①）に焦点を結ぶ眼。眼軸（眼球の奥行き）が短いか、眼の光学系（角膜や水晶体）の屈折が弱いことによる。
近視	無調節状態で、網膜より（②）で焦点を結ぶ眼。近視の度が強くなると、将来、黄斑部出血、網膜剥離、（③）等の病的変化が生じる場合があるので注意が必要である。
乱視	無調節状態で、平行光線が網膜の1点に像を結ばない状態である。主に角膜が球面ではなく、歪んでいるためである。
調節緊張	眼の中のピントを合わせる（④）という筋肉が、近くを長くみていると緊張し、屈折度が近視側に傾いた状態。
不同視	左右の眼の屈折度が異なるもので、その差が大きいと左右の網膜に映る大きさが異なる（不等像）ため（⑤）の原因になったり、また、幼児期では弱視や両眼視機能の発達が阻害されることがある。早期に眼鏡やコンタクトレンズでの矯正が必要となる。

	①	②	③	④	⑤
a	前	後ろ	緑内障	上直筋	調節障害
b	前	後ろ	白内障	毛様体	眼精疲労
c	後ろ	前	白内障	毛様体	調節障害
d	後ろ	前	緑内障	毛様体	眼精疲労
e	前	後ろ	緑内障	上直筋	眼精疲労

3 バイタルサインについて、(1)～(3)の問いに答えなさい。

(1) 次の表は、呼吸の性状と分類を示したものである。表中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 

オ
---

分類		性状
異常リズム	(①)	呼吸の深さが周期的に変化する。数～十数秒の無呼吸の後、徐々に呼吸が深くなり、過呼吸からまた浅い呼吸を経て無呼吸になる。脳出血、脳腫瘍、尿毒症、重症心不全の際みられる。
	(②)	深い速い呼吸と無呼吸が交互におこるが、周期性はなく不規則で一過性である。髄膜炎、頭部外傷の際みられる。
	(③)	深くゆっくりとした呼吸が規則正しく、発作的にみられる。糖尿病性ケトアシドーシス、尿毒症、昏睡時の際みられる。
努力呼吸	鼻翼呼吸	気道を少しでも広げようと鼻翼が張って鼻孔を膨らませる呼吸。気管支炎、肺炎、心臓弁膜症の代償不全、気胸等でみられる。
	(④)呼吸	吸気時、(④)を動かしながら気道を広げ、空気を肺にとりいれようとする呼吸。危篤時、重篤な呼吸不全時でみられる。
	(⑤)	胸腔内が強いの陰圧になるため、吸気時に肋間や肋骨の下方がへこんだようにみえる呼吸。特発性呼吸窮迫症候群でみられる。

	①	②	③	④	⑤
a	ビオー呼吸	チェーン ストークス呼吸	クスマウル呼吸	下顎	陥没呼吸
b	クスマウル呼吸	チェーン ストークス呼吸	ビオー呼吸	肩	徐呼吸
c	チェーン ストークス呼吸	ビオー呼吸	クスマウル呼吸	下顎	陥没呼吸
d	チェーン ストークス呼吸	クスマウル呼吸	ビオー呼吸	肺	徐呼吸
e	クスマウル呼吸	ビオー呼吸	チェーン ストークス呼吸	肩	陥没呼吸

- (2) 次の文は、脈拍について述べたものである。文中の ( ① ) ~ ( ④ ) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。 カ

脈拍は、心臓のポンプ作用で ( ① ) が収縮する際に、大動脈内に送られる血液の波動が全身の動脈内に伝わったものであり、その波動が抹消動脈の血管壁で触知できる。最も簡便かつ重要な生命徴候であり、心臓血管系の重要な評価指標となる。

アセスメントの視点には、脈拍数、リズム、大きさ、緊張度、左右・上下差などの観察がある。例えば脈拍数が成人で ( ② ) 以上であれば、それを頻脈という。リズムをみて、不規則に脈が触れる場合は不整脈といい、( ③ ) や期外収縮の際に見られることが多い。

測定は、示指、中指、薬指の3本の指腹を被検者の動脈部位にあて、脈拍数を1分間測定する。( ④ ) を用いた測定が一般的であるが、その他、浅側頭動脈や大腿動脈等でも触知しやすい。

	①	②	③	④
a	左心房	120回/分	心房細動	橈骨動脈
b	左心室	110回/分	心房細動	上腕動脈
c	左心房	120回/分	心室細動	上腕動脈
d	左心室	100回/分	心室細動	橈骨動脈
e	左心室	100回/分	心房細動	橈骨動脈

(3) 次の文は、1型糖尿病の特徴について述べたものである。①～⑤の説明において正しものには○、誤っているものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。 キ

- ① 肥満型の子どもには、あまりみられない。
- ② 徐々に悪化して、口渇、多飲、多尿などの症状があらわれる。
- ③ インスリンの注射が治療の中心である。
- ④ 家族内に糖尿病患者が多い。
- ⑤ 発症年齢は10～15歳に多く、乳幼児にもみられる。

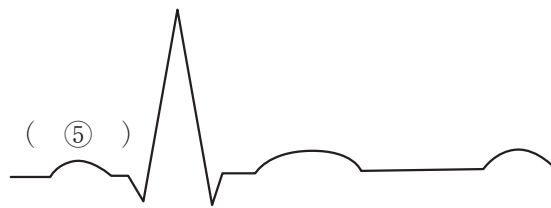
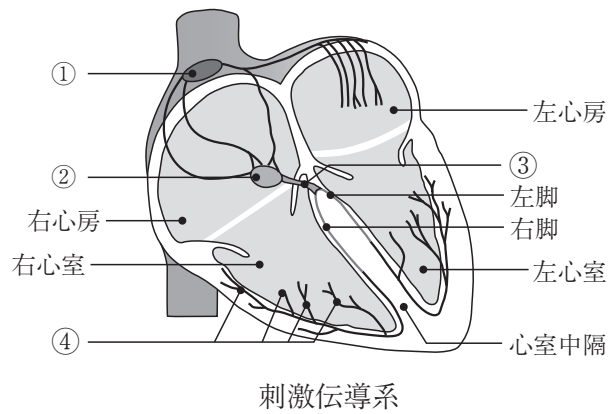
	①	②	③	④	⑤
a	×	○	×	○	×
b	○	○	×	○	×
c	×	○	○	×	○
d	○	×	○	×	○
e	○	×	×	○	×

4 心臓および突然死について、(1)～(4)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、心臓の構造と働きについて述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ク

心臓を動かすための伝導系が、心臓の壁の中の内膜面に沿って走っている。ペースメーカーの役割をする(①)から出た電気刺激は、心房筋の中を通り(②)に伝わる。さらに、(③)を通り右心室と左心室に分布する右脚と左脚に分かれ、(④)から心筋全体へ伝わる。これにより、心房と心室が交互にリズムカルに動き、血液の流れを生む。心電図波形は、これらの電気刺激をとらえたもので、最初の上向きの波を(⑤)波という。



心電図波形

	①	②	③	④	⑤
a	房室結節	洞結節	ヒス束	プルキニエ線維	R波
b	洞結節	房室結節	ヒス束	プルキニエ線維	P波
c	房室結節	洞結節	ヒス束	プルキニエ線維	Q波
d	洞結節	房室結節	プルキニエ線維	ヒス束	R波
e	房室結節	洞結節	プルキニエ線維	ヒス束	P波



(2) 次の文は、胸骨圧迫が大事な理由について述べたものである。文中の ( ① ) ~ ( ④ ) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

ケ

胸骨圧迫は心停止の傷病者を社会復帰させるための一番大事な行動である。胸骨圧迫は心臓マッサージとも呼ばれることもある。胸の ( ① ) を、強く、速く、( ② ) 圧迫することで、止まっている心臓に代わって全身に血液を送ることができる。

人間の体の中で酸素不足に一番弱い細胞は神経で、( ③ ) に血液が流れないと数分間で壊れ始める。したがって、( ④ ) を使用して心臓の拍動がもとに戻っても、それまでの間、胸骨圧迫を続けていないと重い後遺症が残ってしまう可能性がある。

	①	②	③	④
a	真ん中	絶え間なく	脳	AED
b	左側	絶え間なく	心臓	パルスオキシメーター
c	真ん中	正確に	全身	AED
d	真ん中	絶え間なく	心臓	パルスオキシメーター
e	左側	正確に	脳	AED

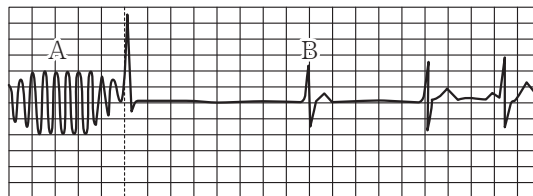
(3) 次の文は、心臓への電気ショックについて述べたものである。文中の ( ① ) ~ ( ③ ) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

コ

突然の心停止の多くは、( ① ) と呼ばれる心臓の ( ② ) によって生じる。( ① ) によって血流が滞ると、からだの様々な臓器に血液を送ることができず、酸素不足となり数分で死に至る。

( ① ) が起きたときは、できるだけ早く心臓に電気ショックを与えて、心臓の異常な興奮をリセットすることによって元のリズムを取り戻す必要がある。

電気ショックは、右の心電図の ( ③ ) の時期に行う。



	①	②	③
a	心室細動	不規則なけいれん	A
b	心房細動	大きいけいれん	B
c	心房細動	細かいけいれん	B
d	心房細動	不規則なけいれん	A
e	心室細動	細かいけいれん	A

- (4) 次の文は、突然死を予防するために、学校関係者が注意することについて述べたものである。文中の ( ① ) ~ ( ⑤ ) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。 

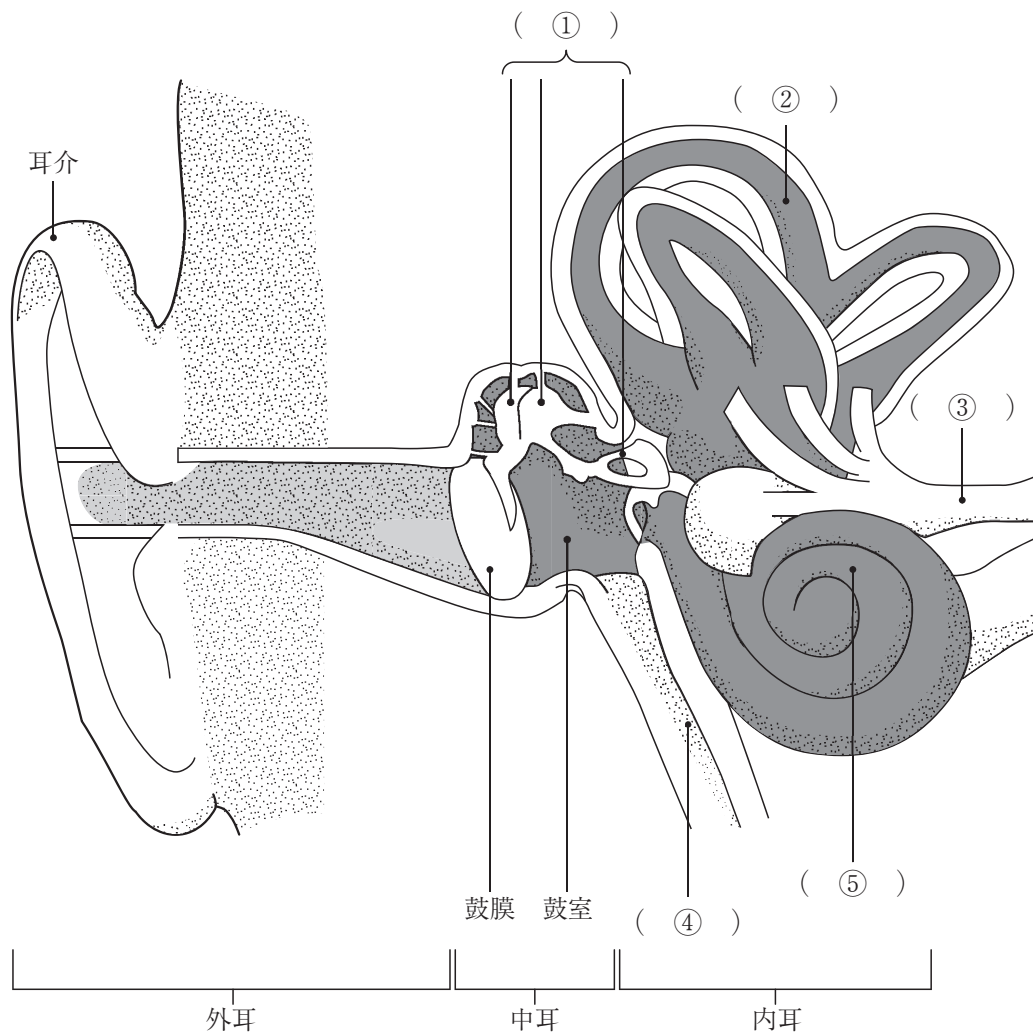
サ
---

- ・心疾患児の診断, ( ① ), 許容される身体活動の内容を ( ② ) を参照して個々の児童生徒毎にチェックし, 学校関係者に周知させる。
- ・教科体育は ( ② ) に沿ったものとする。
- ・教科体育以外の学校行事への参加は, ( ① ) と, ( ③ ) の定義によって判断する。ただし, 場合によっては参加の可否を ( ④ ) あるいは主治医に相談する。
- ・日常 ( ⑤ ) を十分に行い, 学校と保護者との連絡を密にして体調の変化を把握する。
- ・疲労状態, 顔色, 発熱などの身体的異常, 本人の気分の良し悪し, 食欲, 睡眠などの変化に注意する。

	①	②	③	④	⑤
a	治療区分	学校生活管理指導表	生活管理	保護者	健康観察
b	指導区分	主治医の治療方針	診断名	学校医	健康相談
c	指導区分	学校生活管理指導表	運動強度	学校医	健康観察
d	治療区分	主治医の治療方針	運動強度	保護者	健康相談
e	指導区分	学校生活管理指導表	診断名	本人	健康相談

5 次の図は、耳の構造図である。( ① ) ~ ( ⑤ ) に該当する語句の組み合わせを、下のa~eから一つ選びなさい。

シ



	①	②	③	④	⑤
a	耳小骨	半規管	前庭神経	耳管	蝸牛
b	中耳骨	内耳骨	蝸牛神経	前庭	半規管
c	耳小骨	半規管	蝸牛神経	前庭	蝸牛
d	耳小骨	内耳骨	前庭神経	前庭	半規管
e	中耳骨	耳小骨	前庭神経	耳管	蝸牛

6 アレルギー疾患について、次の(1)・(2)に答えなさい。

- (1) 次の文は、皮膚の機能とアトピー性皮膚炎の病態について述べたものである。文中の( ① )～( ⑤ )に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 

ス
---

皮膚は体の一番表層にあり、様々な刺激や物質の侵入から体の内部をまもり、また体内の水分が蒸散することを防いでいる。その一番外側で働いているのが角層と呼ばれる部分で、その働きは( ① )と呼ばれる。

アトピー性皮膚炎は、皮膚が( ② )することが特徴である。( ② )した皮膚は、皮膚の表面(角層)から水分が蒸発しやすいだけでなく、外部からの刺激に対して健康な皮膚よりも敏感に反応して皮膚炎(湿疹)になりやすくなっている。

アトピー性皮膚炎の人の皮膚は、( ① )が低下している。つまり湿疹があるところだけでなく、一見正常に見えるところでも健康な人の皮膚に比べて皮膚表層の水分量が( ③ )、また物質が透過しやすくなっている。

アトピー性皮膚炎では、皮膚の( ① )が低下しているところに様々な刺激や( ④ )が加わって湿疹を生じる。そして湿疹を起こした皮膚の( ① )はさらに低下してますます敏感になり、物質が浸透しやすくなる。また、かゆみのために皮膚を引っ掻くと、その刺激でも湿疹が悪化する。つまり、アトピー性皮膚炎では、湿疹があることが最大のアトピー性皮膚炎の悪化因子の一つであり、この悪循環を止めるのが( ⑤ )の大きな目的になる。

	①	②	③	④	⑤
a	免疫機能	湿潤	多く	炎症	生活療法
b	バリア機能	乾燥	少なく	アレルゲン	薬物療法
c	免疫機能	乾燥	多く	炎症	薬物療法
d	バリア機能	湿潤	少なく	アレルゲン	薬物療法
e	免疫機能	乾燥	多く	アレルゲン	生活療法

(2) 次の文は、アレルギー性鼻炎の児童生徒等に対する学校生活上の留意点及び配慮について述べたものである。文中の ( ① ) ~ ( ⑤ ) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。 

セ
---

アレルギー性鼻炎に対する内服薬を服用していて、授業中の ( ① ) や集中力の低下が目立つ場合には、本人や保護者に対してアレルギー性鼻炎の ( ② ) が関係しているかどうかを主治医に相談するよう促す。

( ③ ) は、投与後 ( ④ ) 程度は激しい運動を避ける必要があるため、体育などがある日は投与した時間を確認する。

また、アレルギー性鼻炎に対する点鼻薬を学校で使用する場合には、児童生徒等の希望に応じ、使用する際の ( ⑤ ) の確保を行う。

	①	②	③	④	⑤
a	居眠り	治療薬	鼻噴霧ステロイド法	1時間	場所
b	息苦しさ	治療薬	舌下免疫療法	1時間	場所
c	息苦しさ	症状	鼻噴霧ステロイド法	3時間	時間
d	居眠り	治療薬	舌下免疫療法	2時間	場所
e	居眠り	症状	鼻噴霧ステロイド法	2時間	時間

7 次の文は、「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」(平成27年4月30日 文部科学省 初等中等教育局児童生徒課長通知)を一部抜粋したものである。文中の( ① )～( ⑤ )に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

- 性同一性障害に係る児童生徒が求める支援は、当該児童生徒が有する違和感の強弱等に応じ様々であり、また、当該違和感は成長に従い減ずることも含め変動があり得るものとされていることから、学校として( ① )をもたず、( ② )の児童生徒の状況等に応じた支援を行うことが必要であること。
- 他の児童生徒や保護者との情報の共有は、( ③ )である児童生徒や保護者の意向等を踏まえ、( ④ )に応じて進める必要があること。
- 医療機関を受診して性同一性障害の診断が( ⑤ )、児童生徒の悩みや不安に寄り添い支援していく観点から、医療機関との相談の状況、児童生徒や保護者の意向等を踏まえつつ、支援を行うことは可能であること。

	①	②	③	④	⑤
a	先入観	成長段階	当事者	重症度	なされない場合であっても
b	特別な配慮	その時々	関係者	学校の状況	なされたらすぐに
c	先入観	成長段階	関係者	個別の事情	なされない場合であっても
d	特別な配慮	その時々	当事者	学校の状況	なされたらすぐに
e	先入観	その時々	当事者	個別の事情	なされない場合であっても

8 次の文は、「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（平成29年3月 文部科学省）の中で示されている養護教諭の役割について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

- 養護教諭は、障害のある児童等に対しては、（ ① ）を念頭に置き、（ ② ）話を聞ける状況を活用しつつ、児童等に寄り添った対応や（ ③ ）を行うことが重要になる。

また、児童等から収集した情報については、必要に応じて各学級の担任や他の関係する教職員と共有することが大切である。

- 養護教諭は、（ ④ ）から、児童等の心身の健康課題を（ ⑤ ）立場にある。また、校内での学年等の枠や校種間を超えて、情報を収集することもできる。情報収集に当たっては、特別支援教育コーディネーターと事前に協議し、校内での効果的な情報の共有を図ることを心掛ける。定期的な相談や情報交換を行う体制づくりが大切である。

	①	②	③	④	⑤
a	人権教育	必要に応じて	教育	職務の特質	指導しやすい
b	特別支援教育	個別に	支援	職務の特質	発見しやすい
c	特別支援教育	個別に	教育	保健室の機能	指導しやすい
d	人権教育	個別に	助言	職務の特質	指導しやすい
e	特別支援教育	必要に応じて	支援	保健室の機能	発見しやすい

9 次の文は、「子供たちを児童虐待から守るために—養護教諭のための児童虐待対応マニュアル—」（平成26年3月 公益財団法人 日本学校保健会）の中で、学校における虐待の気付きと初期対応について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

養護教諭は各学級の（ ① ）結果を集計・分析し、（ ② ）の子供の心身の健康状態を把握し（ ③ ）に周知させるとともに、救急処置、健康相談、保健指導、学級担任への連絡など、（ ④ ）の対応を図る中で、個々の子供の（ ⑤ ）に気付きやすい立場にある。

	①	②	③	④	⑤
a	健康診断	各学年	関係者	予防措置	様子
b	健康観察	全校	全体	事後措置	異変
c	健康診断	全校	全体	緊急	異変
d	健康観察	各学年	関係者	予防措置	様子
e	健康診断	全校	関係者	事後措置	状況

10 「子どもの心のケアのために—災害や事件・事故発生時を中心に—」（平成22年7月 文部科学省）の中で、自然災害時の心のケアに関する基本的な実施事項に考えられるものとして、A：震災から学校再開まで、B：学校再開から1週間まで、C：再開1週間後から6か月、の時期別に、管理職、養護教諭、学級担任等の役割が示されている。Bの時点での養護教諭の役割について、次の①～⑤のうち、正しいものには○、誤っているものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。

- ① 家庭訪問、避難所訪問
- ② 臨時の学校環境衛生検査の実施についての検討
- ③ 保健だより等の啓発資料の配布
- ④ 健康相談の実施
- ⑤ 感染症の予防対策

	①	②	③	④	⑤
a	×	×	○	○	○
b	×	○	×	×	○
c	○	×	○	×	○
d	○	○	×	○	×
e	○	×	×	○	×



- 11 「教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応」(平成21年 文部科学省)の中で、子どもの心の健康づくりにかかわる教職員の主な役割が述べられている。次の①～⑤のうち、養護教諭の役割のポイントとして適切なものはどれか。正しい組み合わせを下のa～eから一つ選びなさい。 テ

- ① 子どものメンタルヘルスをめぐる緊急事態への見立てを行う。
- ② 常に情報収集に心がけ、問題の背景要因の把握に努める。
- ③ 校内委員会(教育相談部等)に参加し共通理解を図る。
- ④ 子どもの心身の健康状態を日ごろからの確に把握し、問題の早期発見・早期対応に努める。
- ⑤ 子どもの訴えを受け止め、心の安定を図れるように配慮する。

a	b	c	d	e
①②④	①③④	②③④	②③⑤	②④⑤

第4問 次の1～4の問いに答えなさい。

1 感染症に関する基本的理解について、次の(1)～(4)の問いに答えなさい

(1) 次の文は、吐物・下痢便の清掃について述べたものである。文中の( ① )～( ⑤ )に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 

ア
---

近くにいる人を別室などに移動させ、( ① )をした上で、吐物・下痢便は、ゴム手袋、マスク、ビニールエプロンをして、できればゴーグル、靴カバーを着用し、ペーパータオルや使い捨ての雑巾で拭きとる。

吐物は広範囲に飛散するため、中心部から半径( ② )の範囲を( ③ )に向かって、周囲に拡げないようにして静かに拭き取る。拭き取ったものはビニール袋に二重に入れて密封して破棄する。

便や吐物の付着した箇所は、( ④ )次亜塩素酸ナトリウム消毒液で消毒する。消毒液をスプレーで吹きかけると、逆に( ⑤ )が舞い上がり、感染の機会を増やしてしまうために、噴霧はしないようにする。

	①	②	③	④	⑤
a	換気	1 m	外側から内側	0.01% (100ppm)	吐物
b	換気	2 m	内側から外側	0.1% (1,000ppm)	病原体
c	密閉	1 m	外側から内側	0.01% (100ppm)	汚染物質
d	換気	2 m	外側から内側	0.1% (1,000ppm)	病原体
e	密閉	1 m	内側から外側	0.01% (100ppm)	病原体

- (2) 次の文は、消毒・滅菌について述べたものである。文中の ( ① ) ~ ( ③ ) に該当する語句の組み合わせを、下の a ~ e から一つ選びなさい。

消毒には、煮沸消毒や熱水消毒などの熱や紫外線を用いる物理的消毒法と、消毒薬を用いる化学的消毒法がある。各消毒薬の特性や、病原微生物の消毒抵抗性にも違いがあるため、消毒薬と病原微生物の組み合わせによっては効果が期待できない場合もある。例えば、消毒抵抗性が強いノロウイルスに対しては、( ① ) 消毒では十分な効果が得られないため、( ② ) 消毒薬を用いる必要がある。また、器具等を消毒薬に浸け置きした後にすすぐ場合、消毒薬が残存しないよう十分にすすぐ。

滅菌は全ての微生物を殺滅または除去する方法で、器具等に対して行われる。高圧蒸気滅菌（オートクレーブ）、乾熱滅菌、エチレンオキシドガス滅菌などがある。いずれも滅菌するための温度や時間等の条件を守ることが重要である。芽胞（孢子）を作る病原体は、( ③ ) で十分に滅菌できないことがある。

	①	②	③
a	アルコール	次亜塩素酸ナトリウム	乾熱滅菌
b	次亜塩素酸ナトリウム	アルコール	高圧蒸気滅菌
c	アルコール	次亜塩素酸ナトリウム	エチレンオキシドガス滅菌
d	次亜塩素酸ナトリウム	アルコール	乾熱滅菌
e	アルコール	次亜塩素酸ナトリウム	高圧蒸気滅菌

- (3) 次の文は、予防接種（ワクチン）について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ④ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ウ
---

感染症に（ ① ）があるものに対してあらかじめ（ ② ）を与えることが、感染症を未然に防ぐために重要である。特に、ワクチンで予防可能な疾患は接種対象年齢に（ ③ ）速やかに接種を受けておくことが大切であり、特に、（ ④ ）に入る前までに必要回数の接種が完了していることが大切である。

	①	②	③	④
a	抵抗力	抗体	達したら	集団生活
b	感受性	免疫	達するまでに	小学校
c	感受性	免疫	達したら	集団生活
d	抵抗力	負荷	達するまでに	小学校
e	感受性	抗体	達したら	集団生活

(4) 次の表は、5つの感染症の潜伏期間と感染経路、感染期間について説明したものである。①～⑤の各感染症についての説明が正しいものには○，誤りがあるものには×をつけた場合、正しい組み合わせはどれか。下のa～eから一つ選びなさい。

工

感染症の種類	潜伏期間	感染経路、感染期間
① インフルエンザ (特定鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	平均2日 (1-4日)	飛沫感染。接触感染もある。感染期間は発熱1日前から3日目をピークとし7日目頃まで。しかし低年齢患児では長引くという報告がある。
② 流行性耳下腺炎	主に7-14日	接触感染。耳下腺などの唾液腺が腫脹した日から腫脹3日後までが最もウイルス排出量が多く、他への感染の可能性が高い。
③ 咽頭結膜熱	16-18日	経口感染。塩素消毒が不十分なプールでの目の結膜からの感染もある。ウイルス排出は初期数日が最も多いが、その後、便からは数か月排出が続くこともある。
④ 結核	2年以内、特に6か月以内が多い。感染後、数十年後に症状が出現することもある。	主として感染性の患者からの空気感染(飛沫核感染)。喀痰の塗抹検査で陽性の間は感染力が強い。
⑤ サルモネラ感染症	2-3日	飛沫感染、接触感染、経口(糞口)感染。鶏卵などの食品を介しての感染もある。便中に多量のウイルスが排出されており、感染源となる。吐物にもウイルスは多量に含まれており、感染源となる。感染力も強い。乾燥してエアロゾル化した吐物が感染源となる空気感染(塵埃感染)もある。感染力は急性期が最も強く、便中にウイルスが3週間以上排出されることもある。

	①	②	③	④	⑤
a	○	○	○	×	×
b	×	×	○	○	○
c	○	×	×	○	×
d	○	×	×	×	○
e	×	○	×	○	○

2 麻しんへの対策について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、「学校における麻しん対策ガイドライン 第二版」(平成30年2月 国立感染症研究所感染症疫学センター)の中で麻しんの症状について述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

麻しんに対する免疫をもっていない人の体内に麻しんウイルスが侵入すると、体の中でウイルスが増殖しはじめます。増えたウイルスは血流等によって全身にひろがります。この間は無症状で(潜伏期と言います)、その期間はおよそ(①)です。潜伏期の後38℃台の発熱、せき、のどの痛み、鼻水、めやに、目が赤くなる、体がだるいといった症状が出はじめ、症状は(②)間続きます。この時期を(③)と呼びますが、この時期の症状は麻しんに特徴的なものではありませんので、かぜと診断されることもよくあります。麻しんは、その経過中で発熱する(④)くらいから他者への感染力が生じるといわれていますので、知らないうちに多くの人に麻しんをうつしてしまうことになりかねません。(③)の感染力が最も強いと考えられていますので、麻しんの疑いがある場合には、早期に対処をすることが重要です。その後、口の中の粘膜(奥歯のすぐ横付近)に白いぶつぶつができはじめます。これを(⑤)と呼んでいます。これが見つかり、病院で麻しんと診断されます。

	①	②	③	④	⑤
a	16～21日	7～10日	カタル期	1日前	蝶形紅斑
b	10～12日	4～5日	カタル期	1日前	コプリック斑
c	10～12日	4～5日	発しん期	1週間前	コプリック斑
d	16～21日	7～10日	発しん期	1週間前	蝶形紅斑
e	10～12日	7～10日	カタル期	1日前	コプリック斑

- (2) 次の文は、「学校における麻しん対策ガイドライン 第二版」(平成30年2月 国立感染症研究所感染症疫学センター)の中で、麻しんに関する基礎知識として述べられているものである。文中の(①)～(④)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 

カ
---

麻しんが恐れられてきた理由に、その症状の激烈さとともに(①)を起こす頻度が高いことも挙げられます。(②)と(③)が麻しんによる2大死因といわれています。医療が発達した現代でも、麻しんに対する特効薬はなく、対症療法をしながら治癒を待つしかありません。麻しんを発症するとおよそ(④)に1人は命を落とすといわれています。

	①	②	③	④
a	合併症	心筋症	脳炎	10,000人
b	合併症	肺炎	脳炎	10,000人
c	副反応	心筋症	脳出血	10,000人
d	合併症	肺炎	脳炎	1,000人
e	副反応	心筋症	脳出血	1,000人

## 3 学校における薬品管理について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、「学校における薬品管理マニュアル」(平成21年7月 公益財団法人日本学校保健会)の中で学校における医療用医薬品の取扱いについて述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

教職員が児童生徒に医療用医薬品を使用する行為は、(①)に当たるので行うことはできません。しかし、児童生徒が、以下の3つの条件を満たしており、事前の(②)の具体的な依頼に基づき、医師の処方を受け、あらかじめ薬袋等により授与された医薬品について、医師又は歯科医師の処方及び薬剤師の(③)の上であれば医薬品の使用(ア. 皮膚への軟膏の塗布, イ. 湿布薬の貼付, ウ. 点眼薬の点眼, エ. 一包化された内服薬の内服, オ. 肛門からの(④)の挿入, カ. 鼻腔粘膜への薬剤噴霧)の介助が可能です。

## 【3つの条件】

- 1 患者の容態が安定していること
- 2 医師又は看護職員による連続的な容態の経過観察が(⑤)こと
- 3 医薬品の使用に関して専門的配慮が必要でない場合

	①	②	③	④	⑤
a	介護行為	保護者	服薬管理	坐薬	継続中である
b	医行為	保護者	服薬指示	浣腸	継続中である
c	介護行為	主治医	服薬指導	浣腸	必要ではない
d	医行為	保護者	服薬指導	坐薬	必要ではない
e	医行為	主治医	服薬管理	坐薬	必要ではない



- (2) 次の文は、「学校における薬品管理マニュアル」(平成21年7月 公益財団法人 日本学校保健会)の中で学校での医薬品取扱いに関する対応について述べたものである。文中の( ① )～( ⑤ )に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

養護教諭は、緊急時の対応について教職員への共通理解を図る取組を行いましょう。例えば、( ① )に基づいた個別管理記録(個別対応の経過記録)などの作成やシミュレーション形式での校内研修会の企画をするなど、当該児童生徒の緊急時に備える体制づくりや環境整備を行ってください。

また、児童生徒が医療用医薬品を使用する際には、( ② )を守り、( ③ )に医療用医薬品が使用できる環境の整備が必要です。なお、使用場所については、当該児童生徒、保護者、校長及び学級担任、保健主事等と相談し、適切な場所を提供できるように努めましょう。医療用医薬品の( ④ )については、( ⑤ )及び学校医、学校歯科医又は学校薬剤師の指導・助言を受けることが大切です。

	①	②	③	④	⑤
a	診断書	プライバシー	容易	管理	主治医
b	依頼書	身辺	容易	処理	保護者
c	診断書	身辺	安全	管理	保護者
d	診断書	プライバシー	安全	処理	保護者
e	依頼書	プライバシー	安全	管理	主治医

4 健康的な学習環境の維持管理について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の文は、「健康的な学習環境を維持管理するために―学校における化学物質による健康障害に関する参考資料―」(平成24年1月 文部科学省)の中で揮発性有機化学物質の定期検査について述べたものである。文中の(①)～(⑤)に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 ケ

• 採取方法

採取は、午前8時から午後5時までの通常、授業を行う時間帯に行います。原則として児童生徒等が在室していない状態での採取が勧められます。その場合、(①)窓を全開放し換気を行った後、(②)以上部屋を閉め切った後に空気の採取を行います。

やむを得ず、授業を行っている等、児童生徒等が在室の状態での空気の採取を行う場合は、通常の授業時と同様の状態で、壁面から(③)以上離れた場所を選びます。

採取時間は、吸引方式では(④)(検体は午前と午後それぞれ1回以上採取する)であり、拡散方式では始業から終業まで(⑤)以上で1回です。

	①	②	③	④	⑤
a	30分間	5時間	1 m	30分間	8時間
b	10分間	3時間	2 m	10分間	3時間
c	10分間	1時間	1 m	30分間	3時間
d	30分間	3時間	1 m	10分間	8時間
e	1時間	5時間	2 m	1時間	5時間

(2) 次の文は、「健康的な学習環境を維持管理するために ― 学校における化学物質による健康障害に関する参考資料 ―」（平成24年1月 文部科学省）の中で、ホルムアルデヒド等の揮発性有機化合物が基準値以上検出された場合に講じる必要がある措置について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

- 外気ホルムアルデヒド等の揮発性有機化合物の濃度を測定し、外気の濃度が（ ① ）であれば、外気の影響を受けていることから、関連機関と連絡を取り、学校外の（ ② ）対策を取る必要があります。
- 外気より室内空気において、ホルムアルデヒド等の揮発性有機化合物の濃度が（ ③ ）場合は、室内の（ ② ）を究明し、それらを取り除くようにします。
- （ ④ ）を行った状態であっても、ホルムアルデヒド等の揮発性有機化合物の濃度が（ ⑤ ）にならない場合は、その教室は使用できません。

	①	②	③	④	⑤
a	室内より高濃度	汚染経路	低い	換気	基準値以下
b	室内と同じ程度	発生源	高い	換気	基準値以下
c	室内より高濃度	発生源	低い	消毒	0（ゼロ）
d	室内と同じ程度	汚染経路	高い	消毒	基準値以下
e	室内より高濃度	発生源	高い	換気	0（ゼロ）

第5問 次の1・2の問いに答えなさい。

1 薬物の乱用防止について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、「薬物乱用防止教室マニュアル」(平成26年度改訂 公益財団法人 日本学校保健会)の中で、薬物乱用防止教育の位置付けについて述べたものである。文中の( ① )～( ⑤ )に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 

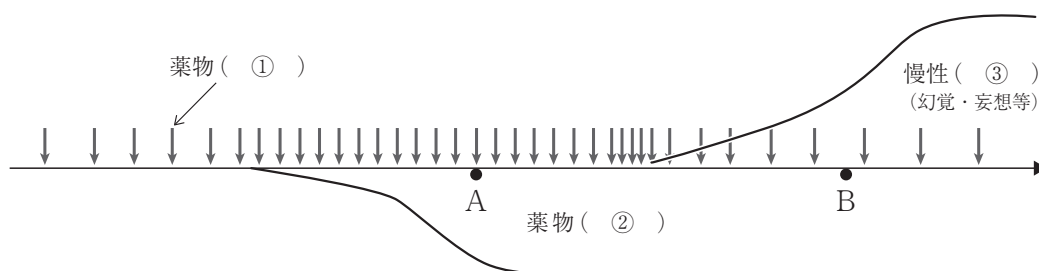
ア
---

- 学校における薬物乱用防止教育は、小学校「体育」、中学校及び高等学校「保健体育」の時間はもとより、「( ① )」、「総合的な学習の時間」、「道徳」等も活用しながら、( ② )を通じて指導が行われるよう引き続き周知を図る。
- 薬物乱用防止教室は、( ③ )において位置付け、( ④ )中学校及び高等学校において年1回は開催するとともに、地域の実情に応じて小学校においても開催に努める。
- 薬物等に関する専門的な知識を有する警察職員、麻薬取締官OB、学校薬剤師等の協力を得るため、関係機関等との( ⑤ )の充実を図る。

	①	②	③	④	⑤
a	特別活動	学校教育全体	学校安全計画	生徒の実態に応じて	相談
b	学校行事	学校教育全体	学校保健計画	すべての	連携
c	特別活動	教育課程全体	学校安全計画	すべての	連携
d	学校行事	教育課程全体	学校保健計画	生徒の実態に応じて	相談
e	特別活動	学校教育全体	学校保健計画	すべての	連携

(2) 次の文は、「薬物乱用防止教室マニュアル」（平成26年度改訂 公益財団法人 日本学校保健会）の中で薬物乱用防止についての基礎的情報として述べられているものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。 イ

次の図は、「薬物（ ① ）」、「薬物（ ② ）」、「薬物（ ③ ）」の経時的関係を示している。薬物の「（ ① ）」を繰り返すと、「薬物（ ② ）」という病態に陥る。「薬物（ ② ）」に陥ると「薬物（ ① ）」の頻度が増加する。典型的には、言動の異常という「慢性（ ③ ）」状態になってしまう。図のBの地点に至ってしまった人は（ ④ ）の治療を受けることになる。現在の（ ⑤ ）は、ほとんどの幻覚妄想状態を消退させる。その結果、その人はA地点に戻るようになる。そうすると、本人もその家族も「治った」という気になりがちである。しかし、精神病状態が消退したからと言って、「（ ② ）」までもがなくなったわけではない。「（ ② ）」が存在する限り、「（ ① ）」が出る。その結果、再びB地点に戻ってしまう。



	①	②	③	④	⑤
a	依存	中毒	乱用	精神科	薬物療法
b	中毒	乱用	依存	脳神経科	カウンセリング
c	乱用	依存	中毒	精神科	薬物療法
d	中毒	乱用	依存	精神科	カウンセリング
e	乱用	依存	中毒	脳神経科	薬物療法

## 2 保健教育について、次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 次の文は、「改訂「生きる力」を育む小学校保健教育の手引」(平成31年3月 文部科学省)の中で教育課程の編成及び実施における教職員の共通理解について述べたものである。文中の( ① )～( ⑤ )に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

ウ

- 保健教育においては、小学校や中学校等で発達の段階に応じて類似した内容が繰り返し学習されることもあるため、前年度の反省や気づきを反映させながら、各教科等の内容の関連、指導の時期、配当時間などが適切に計画されているかを検討すると共に、児童の健康課題の解決に必要な教育の内容等を教科等( ① )視点から各教科等及び各学年間や校種間の内容の( ② )等についても吟味する。
- 子供の健康課題を的確に把握し、校長のリーダーシップのもと、教職員の役割分担を明確にした組織的な推進体制を整備し、体育科をはじめとする各教科等の年間指導計画を( ③ )計画の子供への指導に関する事項や学校運営に関する事項と関連させて作成し、課題解決に向けて計画的・( ④ )に進める。
- ( ③ )計画の作成に当たっては、( ⑤ )がその作成の中心となり、すべての教職員が( ③ )活動に関心を持ち、それぞれの役割を円滑に遂行できるよう調整にあたる。また、子供への指導に関する事項については、育成を目指す資質・能力レベルで具体的に示すなど学習指導要領の基本方針を踏まえた作成が求められる。

	①	②	③	④	⑤
a	横断的な	関連性	学校保健	継続的	保健主事
b	縦断的な	系統性	学校教育	組織的	管理職
c	縦断的な	関連性	学校教育	実践的	養護教諭
d	横断的な	系統性	学校保健	組織的	保健主事
e	横断的な	関連性	学校安全	継続的	養護教諭

- (2) 次の文は、「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省）」の中で学級活動の内容について述べたものである。文中の（ ① ）～（ ⑤ ）に該当する語句の組み合わせを、下のa～eから一つ選びなさい。

工
---

イ 男女相互の理解と協力

男女相互について理解するとともに、共に協力し（ ① ）し合い、充実した生活づくりに参画すること。
--

この内容については、性に関する指導との関連を図ることが重要であり、内容項目のウとして挙げている「性的な発達への対応」とも関連付けて、生徒の発達の段階や実態、心身の発育・発達における（ ② ）などにも留意して、適時、適切な指導を行うことが必要である。加えて、生徒の発達の段階を踏まえることや教育の内容について（ ③ ）で共通理解を図るとともに保護者の理解を得ること、事前に（ ④ ）として行う内容と（ ⑤ ）との内容を区別しておくなど、計画性をもって実施することが求められるところであり、適切な対応が必要である。

	①	②	③	④	⑤
a	尊重	個人差	学校全体	集団指導	個別指導
b	受容	男女差	学校全体	学年指導	生徒指導
c	連携	性差	各学年	学年指導	学級指導
d	受容	性差	各学年	集団指導	生徒指導
e	尊重	個人差	学級全体	学年指導	個別指導





